

1989年8月、「第二回ヤング・アインシュタイン&エジソン・スクール」の開校式で
養老孟司（ヨウロウ・タケシ）氏（東京大学医学部卒、95年まで東大教授、脳研究の著書多数）は
「なぜ」という疑問を持ちつづけることの大切さを講演されました。

以下はその内容の抜粋です（1989年8月26日の朝日新聞から）

.....

「なぜ」を大切に そこから科学

科学をする人は、なぜ、どうして、と考えている。
英語で言うと「なぜ」のWHYと、「どのように」との仕組みを聞くHOW。
二つは似ているけれど、WHYが科学で、もっと進むとHOWの技術になる。
(子供の頃)僕は「WHY」の方が気になっていて大人に聞いたりしたけれど、
たいていは、ちゃんとした答えが返ってこなかった。

・・・人間は「なぜ」と思ってもすぐに忘れちゃう。
あるいは、適当な説明を聞いて納得しちゃう。
これじゃ駄目で、自分の頭にずーっと持っておくのが大事だと思います。

・・・人間に骨がいくつあるか知っていますか。
骨は約200、筋肉は約600あって、名前がついています。
植物も虫も名前がある。みんなも名前がありますね。それで自分は他人と違うと思う。
よく「分析」というでしょう。物を切って、分けて調べる。
これは実は名前をつけるのと同じ。ここから科学が始まるのです。

生物学の大発見はDNAですが、これはたった四種類の塩基が並んでいる。
これもアルファベットを使う人が思いついた。日本語はちょっと難しい。
カナだけでなく漢字もある。だから日本人は、英語の人と違う考え方をする。

どっちにしても人間のやること。
じゃあ、何がそれをやるのかというと、脳が考えるわけです。難しく言うと「意識」。
僕たちは痛いとかお腹が空いたというのが分かる。そういうのが意識。
おそらく、将来中心になる話題の一つは、どうして脳はこんな物をつくれるのかと
いうことです。

脳を見ていて面白いのは、脳神経、グリア細胞（脳細胞に栄養を与える細胞）と血管。
それだけでものを考える。僕たちはこれを集めれば意識ができると考えているけど、
普通はそうは思わない。なぜ思わないかというと常識が妨害するから。

常識は大事なんですけど、邪魔する物なんです。
不思議だなと思ったことは、ちゃんとした答えが出るまでその質問を
ずっと忘れないで下さい。その答えが出ると、ものすごく嬉しい。

科学の一番良いところは、いったんその味を覚えたら忘れないということです。
答えが分かった時の面白さ、それが発見であるわけです。

アルキメデスの原理（浮力）をお風呂場で発見したアルキメデスが喜んで、裸で外へ飛び出したとい
います。世界的に貴重な発見だったから、ではないでしょう。
原理が分かった瞬間、「自分は今まで、こんなことも知らなかったのか」ということが
分かったんです。それがたまたま大発見だっただけです。

科学は自分が納得するかしないかであって、誰だってできる。
発見は、回りの人が大事に思うかどうかではなく、自分にとって大事なら嬉しいんです。

.....

「科学的な情報は100年経っても価値がある」と恩師・三石巖先生はいつておられました。

今年も科学的な思考回路に基づいた健康管理・回復の情報を
常識に捕らわれずお伝えしたいと考えています。

情報提供の場として学習会とホームページを開いています。
